（案）

資 料 1

地域のまちづくりに関する施策
～ 最終提案 ～

平成２９年２月

宇都宮市上河内自治会議

目　　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・　１
提案のテーマについて　・・・・・・・　２
各テーマの体系　・・・・・・・・・・　３

テーマ「産業・経済・交通」
１　現状と課題　・・・・・・・・・・　５
２　１０年後の目標　・・・・・・・・　５
３　方策　・・・・・・・・・・・・・　６
４　実行プラン　・・・・・・・・・・　７

テーマ「子育て・教育」
１　現状と課題　・・・・・・・・・・　９
２　１０年後の目標　・・・・・・・・　９
３　方策　・・・・・・・・・・・・　１０
４　実行プラン　・・・・・・・・・　１１

テーマ「環境・景観・防災」
１　現状と課題　・・・・・・・・・　１３
２　１０年後の目標　・・・・・・・　１３
３　方策　・・・・・・・・・・・・　１４
４　実行プラン　・・・・・・・・・　１５

テーマ「健康・福祉」
１　現状と課題　・・・・・・・・・　１７
２　１０年後の目標　・・・・・・・　１７
３　方策　・・・・・・・・・・・・　１８
４　実行プラン　・・・・・・・・・　１９

おわりに　・・・・・・・・・・・・　２１
これまでの経緯　・・・・・・・・・　２３
上河内自治会議委員歴代名簿　・・・　２４

はじめに

平成１９年３月の市町合併を機に市の附属機関として設置された上河内自治会議では，これまで「合併市町村基本計画」における主要事業の執行状況の答申と合わせ，地域の活力と魅力を高め，誰もが住み続けたい「まち」となるよう，上河内地域の目標像である「自然と人が共生し，安心して暮らせる活力あふれる地域」の達成に向け，「地域のまちづくりに関する施策の提案」を行ってきました。

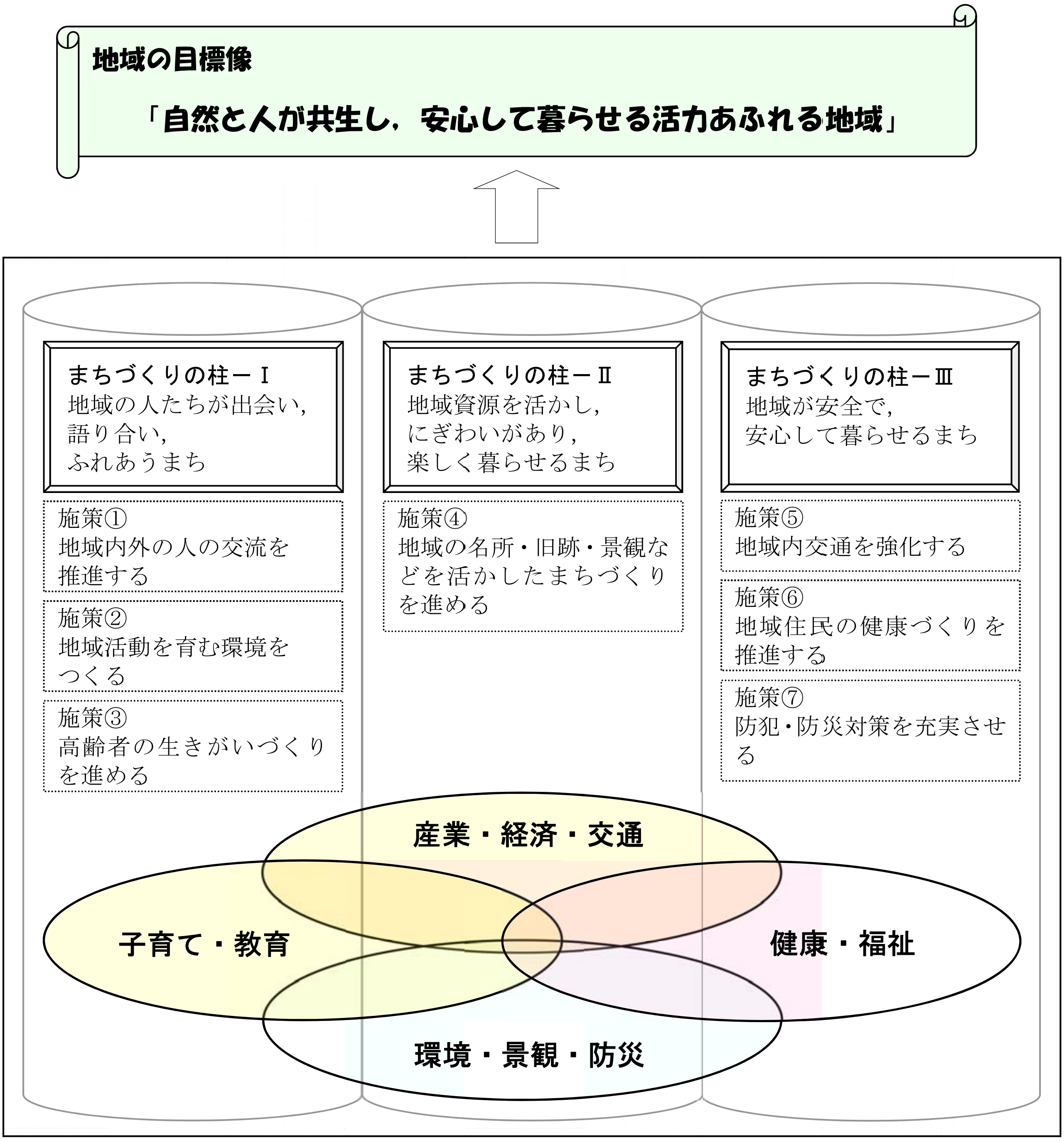
施策の提案にあたりましては，自治会議が発足時に行った「まちづくりアンケート調査」において，地域の自慢は，「豊かな自然」「賑やかな祭り」「穏やかな人柄」などが上位を占めていた結果から，上河内地域の将来を見据え，「誰もが住みたい上河内」の実現に向け，日頃から人々が相互に支え合い助け合いながら，地域の「絆」を深めていくことの重要性を認識し，地域が将来にわたって持続的に発展できるよう，地域の現状・課題・誇り等を十分把握し，上河内地区まちづくり協議会のご意見等を伺いながら，様々な視点での議論を重ねてまいりました。

このような中，合併１０年の集大成とし，「合併市町村基本計画」に掲げられた上河内地域の目標像の実現に向け，３本の柱と７つの施策のほか,「産業・経済・交通」「子育て・教育」「環境・景観・防災」「健康・福祉」のテーマごとに先に提案した内容の検証・評価・見直しを行い「目標を達成するための実行プラン」を掲げ，ここに「地域のまちづくりに関する施策の最終提案」としてまとめました。

この提案が，これまで以上に上河内地域の魅力が創出できる一助となり，住民協働によるまちづくり活動等を通じ，後世の人々が心から誇れる「活力と魅力あふれた地域」となるよう，大きな期待を寄せるものであります。

提案のテーマについて

地域の目標像である「自然と人が共生し，安心して暮らせる活力あふれる地域」を実現するため，「まちづくりの３本の柱」とそれらを達成するための「７つの施策」で構成されており，まちづくりの３本の柱を具現化するための地域にかかせないまちづくりのテーマとして，「産業・経済・交通」「子育て・教育」「環境・景観・防災」「健康・福祉」の４つのテーマ（分野）を定め，各テーマごとに，まちづくりに関する取り組みをより具現化するための方策として取りまとめを行いました。



各テーマの体系

テーマ	１０年後の目標	目　標・方　策
本提案におけるテーマ	現状と課題を踏まえた１０年後の目標	目標を実現するためめに今後進めるべき方策

産業・経済・交通

１０年後の目標： 交通環境が整い、地域の資源を活かした産業が盛んな地域

- ≪目標１≫　生産性の高い魅力ある農業が展開されている地域
  - 方策１　地域農産物を活かした農業の充実
- ≪目標２≫　資源を活かした交流事業の盛んな地域
  - 方策２　地域資源を活かした観光の推進
- ≪目標３≫　人にやさしい交通網が整っている地域
  - 方策３　地域内道路網の整備と地域内交通の利用推進

子育て・教育

１０年後の目標： みんなで見守り支えあい、子どもたちが元気で成長できる地域

- ≪目標１≫　みんながふれあい見守る地域
  - 方策１　地域主催行事への積極的参加の推進
- ≪目標２≫　地域教育やスポーツが盛んな地域
  - 方策２　地域交流活動を通じた絆づくりの推進
- ≪目標３≫　子育て支援が充実した地域
  - 方策３　子育て支援の充実と次世代を担う人材の育成

環境・景観・防災

人と豊かな自然が調和し、安心した暮らしを支えている地域

≪目標１≫　豊かな地域資源が守られている地域

方策１　豊かな水資源の確保と環境保全活動の推進

≪目標２≫　自然を活かした交流が盛んな地域

方策２　地域資源を活用した交流人口の増加

≪目標３≫　災害対策が整い，安心できる地域

方策３　災害に強い地域づくりの推進

健康・福祉

地域の人々が生きがいを持ち、心豊かで元気に暮らしている地域

≪目標１≫　生きがいを自ら創造し，生き生きと暮らせる地域

方策１　高齢者の生きがいづくりの推進

≪目標２≫　健康づくりが充実した地域

方策２　健康づくりと地元食材を活かした食育の推進

≪目標３≫　高齢者が活躍しやすい地域

方策３　高齢者の外出支援の充実

テーマ「産業・経済・交通」

１　現状と課題

（現　状）

① 稲作のほか，いちごやゆずなどの特産物があるが，商品化・ブランド化されていない。
② 農業が盛んであるが，観光資源としてあまり活用されていない。
③ 水と緑などの自然環境に恵まれ，歴史と伝統に育まれている地域である。
④ 幹線道路の一部に狭隘な区間や，生活道路の一部に歩道未整備の区間がある。
⑤ 地域内に，地域路線バスやデマンドタクシーが運行されている。

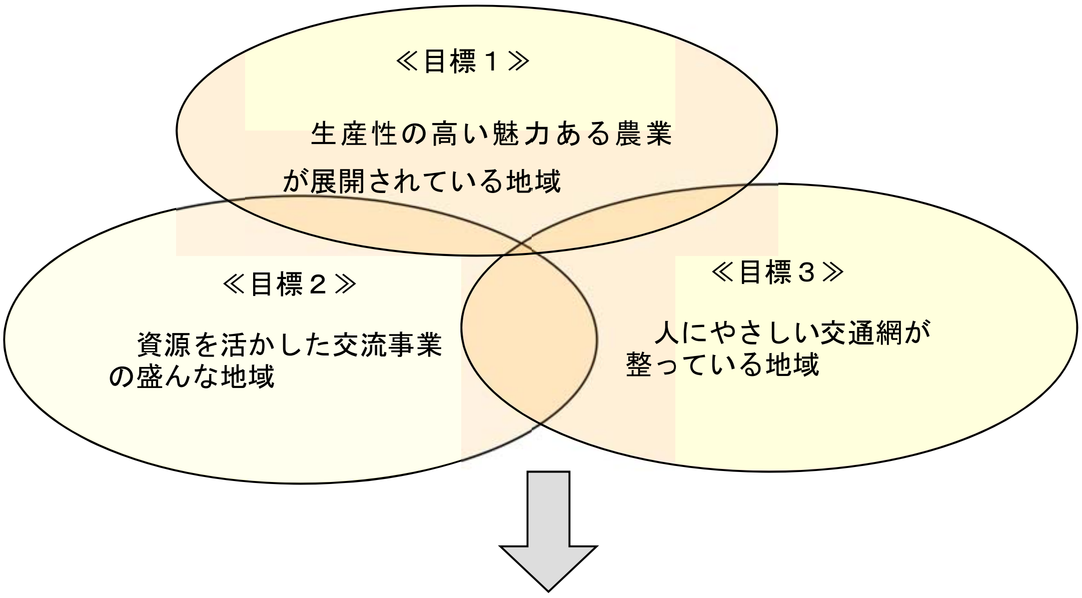
（課　題）

① 地域特産物を活用した商品開発を行い，差別化を図る必要がある。
② 観光農園などを充実させ，観光まちづくりと連携を図る必要がある。
③ 地域資源を活かした交流事業により，観光をより推進する必要がある。
④ スマートＩＣの利便性を活用し，地域の活性化を図る必要がある。
⑤ 公共交通機関の利便性の向上を図り，生活拠点機能を高めていく必要がある。

２　１０年後の目標

地域の現状と課題を踏まえ，３つの目標を掲げたうえで，１０年後の目標を

「**交通環境が整い，地域の資源を活かした産業が盛んな地域**」に定めました。



１０年後の目標

交通環境が整い，地域の資源を活かした産業が盛んな地域

３　方　策

１０年後の目標を実現するために今後進めるべき３つの方策

交通環境が整い，地域の資源を活かした産業が盛んな地域

≪目標１≫　生産性の高い魅力ある農業が展開されている地域

方策１　**地域農産物を活かした農業の充実**

米，ゆず，いちごなど地域農産物の生産拡大とともに，生産・加工・販売まで行う６次産業化を推進し，収益性の高い農業を展開することにより，意欲ある担い手の育成・確保に努め，持続可能な農業を実現する。

また，遊休地などを観光農園や貸し農園として活用し，観光資源化することにより，観光と連携した農業と地域の活性化を推進する。

≪目標２≫　資源を活かした交流事業の盛んな地域

方策２　**地域資源を活かした観光の推進**

国道２９３号，主要地方道藤原宇都宮線などの地域の幹線道路やスマートＩＣによる交通利便性に基づいて，温泉・祭・郷土芸能などの地域資源と農業を連携させ，観光資源としての活用を図るとともに，サイクルスポーツ環境などの整備を促進し，交流人口の増加による地域活性化を推進する。

≪目標３≫　人にやさしい交通網が整っている地域

方策３　**地域内道路網の整備と地域内交通の利用推進**

地域内の狭隘道路や歩道未設置などを解消するため，計画的な道路整備を促進する。

また，地域路線バスとデマンドタクシーの運行にあたっては，利用者の視点に立った見直しを行うなど，利便性の高い運行体系を構築し，安全で住みやすいまちづくりを推進する。

４　実行プラン

（１）実施内容

目標	方　策	取り組み	内　容
交通環境が整い、地域の資源を活かした産業が盛んな地域	方策１ 地域農産物を活かした農業の充実	①農業の活性化に向けた６次産業化の推進	米，ゆず，いちご，トマト，玉ねぎなど品質の高い農産物を生産するとともに，加工品や化粧品など新たな地域ブランド品を開発し，サービスエリアなどでの販売や，インターネット販売による契約先を拡大させるなど，6 次産業化を推進する。
		②遊休地を活用した貸し農園の拡充	遊休地を貸し農園へ有効活用し，借用者に対する相談や指導を，地域農業者が直接行うことによりコミュニケーションを図りながら，農業の魅力を発信し，地域農業の活性化を推進する。
		③地域特産物などを活用した観光農園の開設	ゆずやいちごなどの観光農園を創出し，収穫体験を実施する。また，温泉熱を利用した園芸作物について研究・開発し，新たな園芸振興を図るとともに，農作物を利用した農村レストランの開設を推進し，交流人口を増大させ，地域農業の活性化を図る。
	方策２ 地域資源を活かした観光の推進	④羽黒山を核とする地域資源を活かした観光振興と民間の観光施設との連携	祭や郷土芸能，歴史的資源などの見る観光や，観光農園・貸し農園などの体験観光，温泉施設などを観光マップとして作成し，「歩く」･「自転車」などの観光ツアーを実施して地域の魅力を発信する。また，直売所や温泉施設に観光案内所を設置し，立ち寄る場を設定することにより，地域特産品の販売促進を図る。
		⑤サイクリングコース設定による交流人口の増加	河内地域まで整備されている，山田川サイクリングロードを地域内へ延伸し，ターミナルを設置することで，自転車による旧市町の一体的なまちづくりを推進し，交流人口を増大させる。
	方策３ 地域内道路網の整備と地域内交通の利用推進	⑥安全性を確保するための道路の整備	地域内の狭隘道路や歩道未設置箇所，スマートＩＣを利用した交通量増加などによる危険箇所を把握し，計画的な道路整備を促進し安全を確保する。また，地域活性化のための基幹道路の整備促進による道路ネットワークを促進する。
		⑦利用者ニーズにあった公共交通の見直し	地域の意見を取り入れた，より利便性の高い公共交通を運行するとともに，デマンドタクシーの利用登録世帯，利用回数を増大させる。また，ネットワーク型コンパクトシティの実施に向けた地域外への乗り継ぎを拡充する。

（２）スケジュール

取組	３年後までに	５年後までに	１０年後までに
①	・地域農産物のブランド化推進体制（農業法人化の検討を含む）の確立 ・６次産業化に向けた理解度の充実（普及促進のための研修） ・６次産業化の組織づくりの推進 { ・農業，工業，商業と連携した推進 ・農業者独自での推進	・農産物の選定（米，ゆず，いちご，トマト，玉ねぎ等）と生産拡大 ・消費者ニーズに対応した商品開発とブランド化の推進（地元企業との連携など） ・担い手（後継者）の育成・確保 ・上河内サービスエリアやインターネット等による販路の確保	・６次産業化法人の規模拡大と海外展開 ・農村レストランとの連携（目玉メニューの創出）
②	・事業窓口の確立 ・農地（農園）確保・整備 ・指導者の確保 ・利用者の募集	・栽培方法などの相談・指導 ・貸し農園の拡大 ・貸し農園体系の確立	・貸し農園体系の機能発揮による地域農業の活性化
③	・いちご狩り農園の確保（いちご農家とＪＡとの連携強化） ・いちごマップの作成 ・現在あるゆず園の有効活用の検討 ・温泉熱を利用した農業の勉強会の開催（園芸作物の選定）と事業計画の策定	・ゆずやいちごの量産化 ・地域内外のＰＲ強化 ・収穫体験の実施 ・温泉熱を利用した園芸作物生産担い手の育成・確保 ・農村レストラン推進体制の整備	・交流人口の増大 ・温泉熱利用施設の整備と生産販売 ・農村レストランの開設（既存施設の有効活用を含む）
④	・観光資源調査と観光プランの策定 ・観光コースの設定や観光パンフレット・観光マップの作成 ・標識充実 ・地域内を巡るスタンプラリーの実施	・ホームページ等による観光情報の発信 ・観光イベントの開催 ・地元観光ガイド体制の確立 ・緑水公園の再整備 ・鬼怒川河川敷の有効活用（スポーツ，その他）	・宿泊（合宿）施設の整備 ・観光案内所の設置
⑤	・サイクリングコースの設定 ・サイクルイベントの開催（プロスポーツチームとの連携）	・山田川サイクリングロードの整備（上河内区間） ・情報の発信 ・サイクリングロードの環境整備（沿道への花の植栽など）	・サイクリングターミナルの設置
⑥	・パトロール隊（行政，交通安全，ＰＴＡなどを集結）の組織づくり ・地域情報の集約窓口の設置 ・地域内の道路整備（ガードレールの設置・歩道の整備）	・地域内の道路整備（ガードレールの設置・歩道の整備）	・地域内の道路整備（ガードレールの設置・歩道の整備）
⑦	・地域路線バスの利便性向上について検討（料金体系，運行時刻などの見直し） ・地域イベントでの地域内交通のＰＲ ・デマンドタクシー利用登録世帯，利用者数の増大	・相互乗り入れの実施	・地域外への乗り継ぎの拡充

※ は行政に望むもの。他は，主に地域団体が取り組むもの。

テーマ「子育て・教育」

１　現状と課題

（現　状）

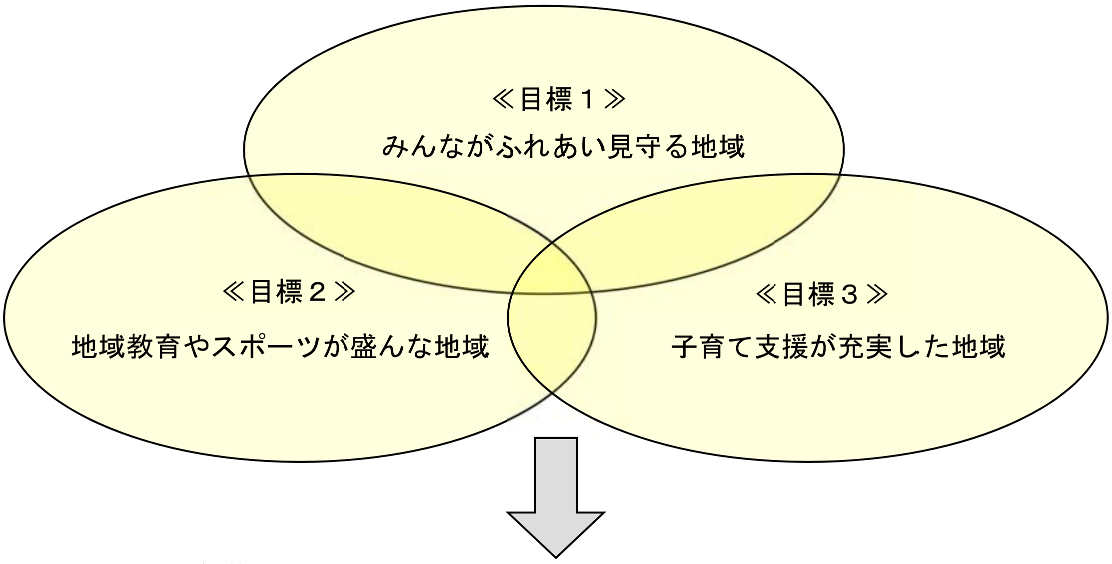
① 親と子どもが一緒に行事に参加していない。
② 地域の人たちと子どもの交流の場が少ない。
③ 地域には団塊の世代の技能者がたくさんいる。
④ 子どもたちが一緒になって体を動かす機会が少ない。
⑤ 子育て中の親同士が気軽に集い，相談できる交流の場が少ない。

（課　題）

① 各種行事への参加者を増やし，地域とのふれあいを大切にする必要がある。
② 地域・学校・子どもたちが一丸となり，交流活動を充実させる必要がある。
③ 団塊の世代の高い技術や能力を持った方々を発掘し，子どもたちの教育に活かしていく必要がある。
④ 子どもたちが気軽にスポーツに参加できる機会を増やす必要がある。
⑤ 子育て支援を強化し，保護者の育児に対する悩みを軽減させる必要がある。

２　１０年後の目標

地域の現状と課題を踏まえ，３つの目標を掲げたうえで，１０年後の目標を「**みんなで見守り支えあい，子どもたちが元気で成長できる地域**」に定めました。



１０年後の目標

みんなで見守り支えあい，子どもたちが元気で成長できる地域

３　方　策

１０年後の目標を実現するために今後進めるべき３つの方策

みんなで見守り支えあい，子どもたちが元気で成長できる地域

≪目標１≫　みんながふれあい見守る地域

方策１　地域主催行事への積極的参加の推進

地域主催行事への参加の呼びかけや魅力ある行事への転換等により，多くの方々が行事に関心を持って積極的に参加できるよう，地域主催行事の更なる充実を図る。

≪目標２≫　地域教育やスポーツが盛んな地域

方策２　地域交流活動を通じた絆づくりの推進

地域ぐるみであいさつ運動やラジオ体操などに取り組み，地域の連携を高めることで，交流活動の充実を図るとともに，子どもたちがスポーツを通じて達成感や一体感を共に実感できるよう，地域に慣れ親しんだスポーツの復活等により，多くの子どもたちがスポーツに参加することができる環境づくりを推進する。

≪目標３≫　子育て支援が充実した地域

方策３　子育て支援の充実と次世代を担う人材の育成

地域における子育て支援を充実させ，子育て中の親同士が子育ての悩みについて話し合える環境づくりを推進するとともに，団塊の世代の高い技術や能力を持った方々に協力を呼び掛け，各種育成講座を開催するなど次世代を担う地域の子どもたちに学びの場を提供する。

４　実行プラン

（１）実施内容

目標	方　策	取り組み	内　容
みんなで見守り支えあい、子どもたちが元気で成長できる地域	**方策１** **地域主催行事への積極的参加の推進**	①行事参加意欲の向上	地域行事の実態調査に基づき，より魅力ある行事を開催することで，地域情報紙の歳時記の充実を図るとともに，行事への参加意欲を向上させる。
		②伝統行事や伝統文化の伝承	伝統行事や伝統文化に関する「まち教授」を募集し，小中学校・幼稚園・保育園と連携して子どもたちに伝えていく。
		③親子ふれあいの場の提供	親子で参加できる行事を企画・開催し，ホームページや学校等で参加を促すことで，親子のふれあいの場を提供する。
	方策２ **地域交流活動を通じた絆づくりの推進**	④地域ぐるみのあいさつ運動（オアシス運動※）の実施	あいさつ運動を実施するためのボランティアの募集や地域学校園を通じた各家庭へのあいさつ運動チラシの配布により，地域・学校・家庭が一体となったあいさつ運動（オアシス運動）を展開する。
		⑤地域ぐるみのラジオ体操の実施	学校や地域，育成会と連携してラジオ体操を推進するとともに，地域における夏休みのラジオ体操の取り組みの統一を図り，地域全体のイベントに設定することで，一緒になって体を動かす機会を創出する。
		⑥スポーツ参加機会の提供	子どもたちが気軽に参加できるようなミニサッカー・縄跳び・ドッチボールなどを地域行事に合わせて開催することで，スポーツへの参加機会を子どもたちに多く提供する。
		⑦地域資源を活かしたスポーツのできる環境づくり	スポーツ指導者の協力のもとで既存施設を活用したスポーツ教室の開設により，子どもたちがスポーツを始めるきっかけづくりを支援する。また，地域スポーツクラブの設置等により，更なるスポーツの充実を図る。
	方策３ **子育て支援の充実と次世代を担う人材の育成**	⑧家庭教育力の強化	乳幼児を含めた子育ての実態調査を行い，調査に基づき子育て支援を充実することで，子育て中の保護者が安心して子育てができる環境をつくる。
		⑨子どもの家の交流	上河内東小学校・上河内西小学校に子どもの家を整備し，放課後における安全で安心な生活の場を提供するとともに，地域にある３つの子どもの家が連携して合同事業を展開し，子育て中の保護者の交流機会を充実させる。 （合併市町村基本計画付議事項）
		⑩各種育成講座の開催	さまざまな能力を有する方々の協力のもとで各種講座を開催し，人材育成に繋げる。また，各学校に働きかけ，小中学生を対象に地域マップや名所旧跡ＤＶＤを活用した出前講座を開催し，地域の歴史文化などを次の世代に伝える。

※オアシス運動・・・あいさつの言葉の頭文字をとったもので，オ「おはようございます」，ア「ありがとうございます」，シ「失礼します」，ス「すみません」を，日頃から言えるように心掛けるための運動

（２）スケジュール

取組	３年後までに	５年後までに	１０年後までに
①	・地域行事の実態調査 (伝統行事の掘り起こし･絞り込みを含む) ・地域情報紙の歳時記を充実化	・魅力ある行事への転換	
②	･「まち教授」を募集 ・伝統行事や伝統文化と学校教育の連携 ・学校等へ「まち教授」を派遣		
③	・既存行事の把握 （子ども会・育成会・自治会を含む）	・親子参加型行事を企画開催 ・まちづくり協議会ホームページや学校等で参加促進	
④	・あいさつ運動ボランティアの募集 ･地域学校園を通じたあいさつ運動チラシの配布 ・地域全体であいさつ運動を実施 （強化月間や標語看板の設置など地域全体に周知する）		
⑤	・ラジオ体操の取り組み内容の検討 ・学校や地域，育成会と連携したラジオ体操の推進	・ラジオ体操を地域全体のイベントに設定	
⑥	・スポーツ推進員を中心に，子どもたちが気軽に参加できるような軽スポーツ教室などの開催	・地域行事に合わせ軽スポーツ教室等を開催	
⑦	・スポーツ指導者の発掘及び把握	・既存施設を活用したスポーツ教室の開催	・地域スポーツクラブの設置 ・スポーツ施設の整備
⑧	・子育て実態調査	・調査を基にした子育て相談の充実 ・交流機会の提供	
⑨	・上河内東小，上河内西小の子どもの家を学校に整備 ･子どもの家のスタッフを対象に研修会を開催 ･上河内地区内３つの子どもの家が連携し，合同事業を実施 ・保護者の交流機会の充実		
⑩	･さまざまな能力を有する方々の発掘 ・ニーズ調査 ・各種講座のメニューづくり ・学校等への紹介	・各種講座の開催	

テーマ「環境・景観・防災」

１　現状と課題

（現　状）

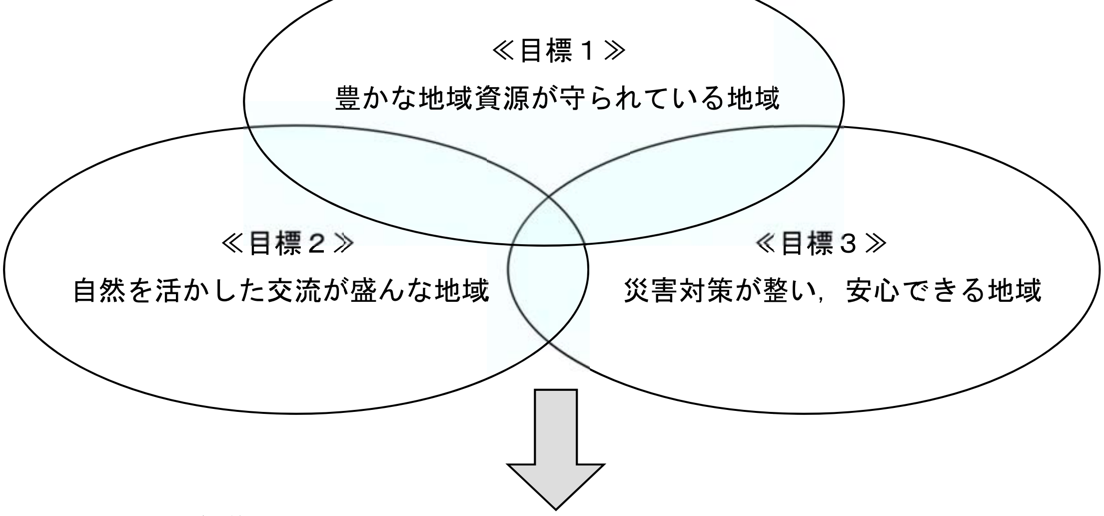
① 鬼怒川・西鬼怒川・山田川などがあり，水が豊かな地域である。
② ごみのポイ捨てや不法投棄などが目立つ。
③ 農林業従事者の高齢化等により，耕作放棄地が増加している。
④ 美しい自然や景観などの地域資源がたくさんある。
⑤ 地域によって土砂くずれや洪水など，さまざまな災害が想定される。

（課　題）

① 水質を保全し，豊かな水資源を活かしたまちづくりを推進する必要がある。
② 環境問題に関心を持たせ，地域全体で環境保全活動に取り組む必要がある。
③ 耕作放棄地や荒廃森林を有効活用し，放棄地を減らす必要がある。
④ 地域の美しい自然を再発見（整備）し，交流人口の増加に繋げる必要がある。
⑤ 地域に合った災害対策を確立し，災害時の防災体制を強化する必要がある。

２　１０年後の目標

地域の現状と課題を踏まえ，３つの目標を掲げたうえで，１０年後の目標を「**人と豊かな自然が調和し，安心した暮らしを支えている地域**」に定めました。



１０年後の目標

人と豊かな自然が調和し，安心した暮らしを支えている地域

３　方　策

１０年後の目標を実現するために今後進めるべき３つの方策

人と豊かな自然が調和し，安心した暮らしを支えている地域

≪目標１≫　豊かな地域資源が守られている地域

方策１　**豊かな水資源の確保と環境保全活動の推進**

上河内の豊かな水を保全し，良好な水資源を確保することにより，水資源を活かしたまちづくりを推進するとともに，地域ぐるみで清掃美化活動に取り組み，花とみどりのまちづくりを充実させ，美しい景観づくりを推進する。

≪目標２≫　自然を活かした交流が盛んな地域

方策２　**地域資源を活用した交流人口の増加**

上河内が誇る美しい自然や景観などの地域資源や，耕作放棄地・荒廃森林を有効に活用することで，自然とふれあう機会を充実させ，地域内外の交流人口の増加を促進する。

≪目標３≫　災害対策が整い，安心できる地域

方策３　**災害に強い地域づくりの推進**

地域に合った災害対策を考え，防災意識の高揚を図るとともに，地域が連携した災害に強い防災基盤を構築する。

4　実行プラン

（1） 実施内容

目標	方　策	取り組み	内　容
人と豊かな自然が調和し、安心した暮らしを支えている地域	方策１ 豊かな水資源の確保と環境保全活動の推進	①水質の保全	河川の清掃活動の日を定め，定期的な河川の清掃等を通じ蛍が生息しやすい環境を維持するとともに，子どもたちの水環境に対する意識の啓発を行う。 また，地域内の水環境を完全に整備することで，安全で安心な水質の管理を行う。（合併市町村基本計画付議事項）
		②ごみ「０」運動の促進	毎月，清掃の日を定め，地域全体で定期的な清掃を行うとともに，地元の小中学生にごみ「０」運動に関する啓発ポスターを依頼し，公共施設に貼付・啓発することで，ごみ「０」の地域を定着させる。
		③花とみどりのまちづくり	ガーデニング講座や景観・環境美化活動（ガーデニングを含む）コンテストの開催により，花とみどりのまちづくり活動を推進する。
	方策２ 地域資源を活用した交流人口の増加	④耕作放棄地等の活用	耕作放棄地で草花の作付けや農業体験学習を行い，耕作放棄地を有効に活用する。 また，地域ボランティアの活動協力を得て，荒廃した森林の間伐を推進し，森林全体を健康にしていくとともに，間伐材を有効に活用する。
		⑤地域資源の発見	地域資源育成保全を行うボランティアを募集し，地域に眠っている資源を発掘するとともに，発掘した地域資源と梵天の里歩こうマップを連結させ，地区外の人との交流を深める。
		⑥山田川サイクリングロードの整備	山田川サイクリングロードを整備し，サイクリングターミナルを設置するとともに，サイクリングロード沿いを花でいっぱいにする。
		⑦ハイキングコースの整備	羽黒山周辺のハイキングコースを整備し，羽黒山周遊コースと名所旧跡と連結させた地区内ハイキングコースを設定する。
		⑧西鬼怒川堤の整備	西鬼怒川堤に桜（黄桜など）を植林し，上河内の桜の名所に位置づけることで，地域内外の人との交流を推進する。
	方策３ 災害に強い地域づくりの推進	⑨災害対策の強化	災害に関する地域調査を行い，地域に合った災害対策を検討するとともに，多くの住民参加による防災訓練を通じ，各自治会の連携を強化するなどして防災意識を高める。 また，地域にある井戸水調査（場所・水質）を行い，調査に基づく井戸水マップを作成することで，災害時の飲料水を確保する。

（２）スケジュール

取組	３年後までに	５年後までに	１０年後までに
①	・定期的な河川の清掃活動 ・子どもたちの水環境に対する意識啓発（生き物調査を通じた河川の水質調査等） ・蛍の生息地調査 ・蛍マップの作成（自然環境保全・保護のための資料として活用） ・小水力発電の地産地消の可能性を含め行政に依頼	・蛍が生息できる環境を作るための河川の清掃	
	→	→	・公共上下水道の整備 →
	→	→	・合併処理浄化槽設置 →
②	・定期的な自宅周辺の清掃活動を実施 ・地域の清掃日を定め，地域全体で清掃活動を実施（月１回） ・ポスターコンクールの実施及びポスターの作成・啓発（小中学校に参加依頼）		
③	・ガーデニング講座の開催 ・景観・環境美化活動（ガーデニングを含む）コンテストの開催		
④	・耕作放棄地の利用調査（他事例等） ・耕作放棄地の活用方法と場所を選定	・耕作放棄地に草花を作付け ・耕作放棄地を農業体験学習に利用 ・地域ボランティア組織を育成・確保し，荒廃森林の間伐事業等を推進 ・間伐材を有効に活用	
⑤	・地域資源育成保全ボランティアの募集 ・地域資源の発掘調査 （梵天の里歩こうマップ等を活用） ・美しい景観地や名所旧跡等の維持管理を強化	・発掘した地域資源を小冊子にまとめ，各公共施設に設置	
⑥	・自転車の駅のＰＲ（梵天の湯が指定されている）	・山田川サイクリングロードの整備（上河内区間） ・ロード沿に花を植栽	・サイクリングターミナルの設置
⑦	・羽黒山周辺のハイキングコースを整備 ・名所旧跡等と連結させ，地区内ハイキングコースを設定		
⑧	・西鬼怒川堤一帯（緑水公園周辺と梵天の湯周辺）の桜（黄桜を含む）を桜の名所に設定しＰＲ		
⑨	・災害に関する地域調査 ・上河内版ハザードマップの作成 ・地域全体で防災訓練を実施 ・災害時緊急用具の適正な維持管理 ・地域にある井戸水調査（場所・水質） ・井戸水マップの作成	・非常用井戸の設置	

※　　　は行政に望むもの。他は，主に地域団体が取り組むもの。

テーマ「健康・福祉」

1　現状と課題

（現　状）

① 高齢者が生涯にわたり活躍できる機会が少ない。
② 高齢者の生きがいに繋がるような交流の場が少ない。
③ 地域には温泉施設や保健センター（平成２９年４月から仮称「上河内健康館（健康交流施設)」）など，健康づくりに活用できる施設がある。
④ 地域には新鮮な野菜等がたくさんある。
⑤ 高齢者や体の不自由な方が外出できる足が確保されていない。

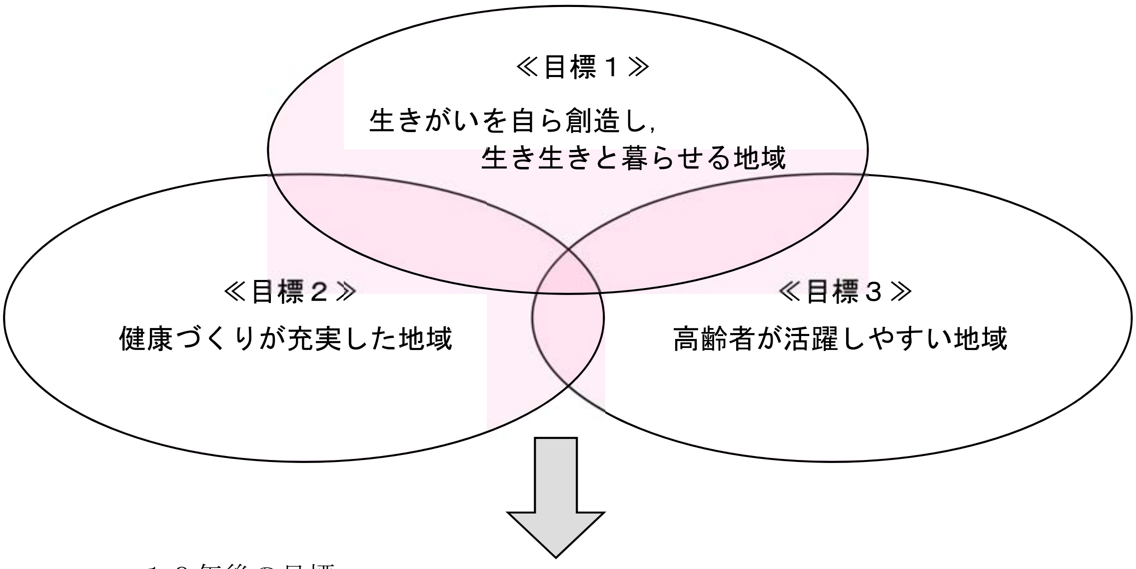
（課　題）

① ボランティア活動等を通じ，高齢者の社会参加と生きがいづくりを推進する必要がある。
② 高齢者の昔ながらの知恵や経験を活かし，世代間の絆づくりを推進する必要がある。
③ 温泉施設や仮称「上河内健康館（健康交流施設)」を有効活用し，健康づくりを推進する必要がある。
④ 地域の食材を活用した食育活動を通じ，食への関心を高め，健康づくりを推進する必要がある。
⑤ 地域に合ったデマンドタクシーの運営や生きがいづくりの場の提供などにより，高齢者の外出支援を充実させる必要がある。

2　１０年後の目標

地域の現状と課題を踏まえ，３つの目標を掲げたうえで，１０年後の目標を

「**地域の人々が生きがいを持ち，心豊かで元気に暮らしている地域**」に定めました。



１０年後の目標

地域の人々が生きがいを持ち，心豊かで元気に暮らしている地域

３　方　策

１０年後の目標を実現するために今後進めるべき３つの方策

地域の人々が生きがいを持ち，心豊かで元気に暮らしている地域

≪目標１≫　生きがいを自ら創造し，生き生きと暮らせる地域

方策１　高齢者の生きがいづくりの推進

いつまでも元気で生き生きと暮らしていけるよう，高齢者の活動機会の充実を図るとともに，高齢者の昔ながらの知恵や経験を活かした世代間交流を充実させ，高齢者の生きがいづくりを推進する。

≪目標２≫　健康づくりが充実した地域

方策２　健康づくりと地元食材を活かした食育の推進

住民自らが積極的に健康づくりに参加できるよう，温泉施設や仮称「上河内健康館（健康交流施設）」を拠点とした質の高い健康づくりを推進するとともに，上河内の新鮮でおいしい食材を利用した料理教室等の開催により，食とふれあう機会を充実させ，地域の方々の食への関心を深めることで，食育の推進を図る。

≪目標３≫　高齢者が活躍しやすい地域

方策３　高齢者の外出支援の充実

デマンドタクシーを充実させ生活圏を拡大するとともに，高齢者が身近に集える居場所づくりなどにより，高齢者の外出支援の充実を図る。

4　実行プラン

（1）実施内容

目標	方　策	取り組み	内　容
地域の人々が生きがいを持ち、心豊かで元気に暮らしている地域	方策１ 高齢者の生きがいづくりの推進	①老人クラブ等の強化による生きがいづくり	人と人との繋がりを大切にし，老人クラブ等への加入促進を図るための声かけ運動を継続的に行い，組織を強化させ，更なる活動の充実を図ることで，生きがいづくりを推進する。
		②高齢者の社会参加の促進	上記の高齢者団体と連携を図りながら高齢者ボランティアバンクを設置し，ボランティア活動を行うとともに，高齢者ボランティアと地域団体との連携を強化することで，ボランティア活動の更なる充実を図る。
		③世代間交流の充実	地域における三世代交流事業(※)を推進するとともに，高齢者が地元の幼稚園や保育園に出向き，園児に昔ながらの遊びや伝統工芸等を伝えることで，世代間交流を推進する。
	方策２ 健康づくりと地元食材を活かした食育の推進	④温泉施設と仮称「上河内健康館（健康交流施設）」の有効活用	温泉施設と仮称「上河内健康館（健康交流施設）」が連携して健康づくり教室を開催するとともに，既存の健康づくり教室のPRを強化し，多くの方々が参加できる機会を提供する。 また，利用者ニーズ調査に基づき，高齢者にやさしい温泉施設内の整備を行うことにより，安心して利用できる温泉施設を提供する。（合併市町村基本計画付議事項）
		⑤歩くことによる健康づくり	上河内にある歩く会のネットワークを強化し，上河内地区全域のウォーキングデーを定め，温泉施設を中心とした周辺の散策などを行う。
		⑥食とふれあう機会の提供	地元の食材を使用したメニューの開発や料理教室などを行い，食の大切さを地域に広く伝えるとともに，次の世代に食文化を継承するため，上河内の郷土料理など，上河内の食文化を地域内外に波及させる。
		⑦学校と連携した食育活動	学校教育の中で農業体験を拡大するとともに，自分で収穫した野菜を使用して食育教室を開催することで，次の世代に食の大切さを伝えていく。
	方策３ 高齢者の外出支援の充実	⑧高齢者の外出意欲の向上	高齢者の趣味や特技などを活かした発表会などを開催することで，高齢者の外出意欲を向上させる。
		⑨デマンドタクシーを利用した外出支援の強化	多くの高齢者が進んで外出できるような地域に合ったデマンドタクシーの運営により，高齢者の外出を支援する。
		⑩高齢者の身近なふれあいづくりの場の提供	隣近所・公園・公民館など，いつでも集まれる場所を高齢者に開放することで，高齢者の趣味や特技などを活かすことができるふれあいの場を提供する。

※三世代交流事業・・・子ども・保護者・高齢者が一堂に会し，竹とんぼなどの昔遊びやさまざまな交流機会を通じ，お互いにもたらす良い効果や世代の枠を超えた絆をより深めるために実施している事業

（２）スケジュール

取組	３年後までに	５年後までに	１０年後までに
①	・老人クラブ等への加入促進 （各種事業紹介・声かけ運動等）	・老人クラブ等の活動の充実	
②	・高齢者ボランティアの募集 ・ボランティアバンクを設置 ・市のボランティアセンターを活用 ・ボランティアニーズの調査	・１人１分野ボランティア活動の実施 ・高齢者ボランティアと地域団体との連携強化	
③	・地域における三世代交流事業を推進 ・高齢者が地元幼稚園や保育園，小中学校に出向き，昔ながらの遊び等を伝授 ・昔ながらの遊びや伝統行事等を伝える新たな指導者の育成・確保		
④	・意見交換会の実施（梵天の湯・仮称「上河内健康館（健康交流施設）」・地域） ・温泉施設と仮称「上河内健康館（健康交流施設）」が連携し，健康づくり教室を開催 ・仮称「上河内健康館（健康交流施設）」で実施している各種健康づくり教室のPRの強化 ・温泉施設の利用者ニーズ調査	・高齢者に配慮した温泉施設内の再整備	
⑤	・上河内にある歩く会のネットワーク化 ・ウォーキングデーを定め，梵天の湯周辺を散策		
⑥	・料理研究会をつくり，地元食材を使用したメニューの開発や料理教室の開催 ・会食会などの開催 ・地場産野菜を使ったメニューの開発 ・郷土料理や開発した料理を地域内外にPR		
⑦	・学校教育の中で地場産野菜の栽培収穫に参加 ・小中学生を対象に食育教室を開催 ・指導者の選任・育成		
⑧	・高齢者の趣味や特技などを調査 ・高齢者の趣味や特技などを活かした発表会やスポーツ大会への参加		
⑨	・デマンドタクシーに対する理解の促進 ・運営組織の充実		
⑩	・高齢者が楽しめる企画を設定 ・地区毎の公民館を高齢者に開放する「ふれあい・いきいきサロン事業」の推進 ・地域情報紙に高齢者事業を掲載	・新たなサロンの開設	

※ 　　　は行政に望むもの。他は，主に地域団体が取り組むもの。

おわりに

平成１９年３月の市町合併以降，上河内自治会議の答申により，道路の整備をはじめ，東北自動車道へのスマートＩＣの設置や中里原土地区画整理事業など「合併市町村基本計画」に掲げた主要事業がより円滑に進捗したことにより都市機能が更に進展し，宇都宮市の北の玄関口にふさわしい均衡のとれた住みやすい生活基盤が形成されてきております。

上河内地域の各種団体や住民の地域創意を形成する「上河内地区まちづくり協議会」が平成２２年２月に設立されたことにより，住民主体のまちづくりを行う仕組みが整えられ，地域に根ざした活動が実践されるなど，魅力あるまちづくりに向けた取り組みが着実に進められてきております。

このような中，愛郷心はもとより，秀麗な羽黒山や水清らかな鬼怒川の流れの美しさをはじめ，豊かな自然環境や歴史と伝統，更には豊かな人間力など，上河内地域特有の誇れる資源を数多く有しており，歴史ある羽黒山梵天祭においては，祭りの魅力発信や伝統行事の継承へ繋げるよう，新たに来場者への「おもてなし」に取り組むほか，これまで以上に地域の個性と特性を生かした「上河内ふれあいまつり」や「絶景！！羽黒山ウォーキング」の開催など，様々な交流事業等を通じながら，これからも「住み続けたい」「住んでみたい」と思えるよう，心の豊かさと地域の魅力・活力を更に高めていくことで，さらなる賑わいの創出が大いに期待できます。

今後のまちづくりを推進する上で，先に提出した答申と合わせ，この「地域のまちづくりに関する施策の最終提案」が，まちづくり協議会で現在策定中の「地域ビジョン」の礎となり，まちづくり協議会を核とした地域活動団体との連携を高めながら「人間力・資源・情報」の活発な交流を図るなど，地域と行政とが一体となり，上河内地域の特性を活かし，豊かで魅力と活力のあるまちづくりを進めていくことで，これまで以上に地域力の向上が図れるものと信じています。

羽黒山，梵天祭，関白神獅子舞，梵天の湯，ゆずなど，上河内地域特有の資源を最大限に活かし，自然，文化，観光などとの組み合わせにより新たな相乗効果と更なる

賑わいを創出させながら，上河内地域の総意による住民が主役のまちづくりに取り組んでまいります。

最後に，ご協力いただきました地域の方々に深く感謝の意を表しますとともに，今後，上河内地域が光り輝く新たなまちづくりへの第一歩を着実に踏み出していくことを強く願うものであります。

これまでの経緯

《第１期：平成１９～２０年度》

合併市町村基本計画に掲げられた地域の目標像「自然と人が共生し，安心して暮らせる活力あふれる地域」を実現するために「地域には何が必要なのか，何をしなければならないのか」を検討し，「まちづくりの３本の柱」とそれらを達成するための「７つの施策」を策定し，提案書としてまとめました。（平成２１年３月提案書提出）

《第２期：平成２１～２２年度》

前回の提案を基礎とし，地域に欠かせないまちづくりの４つのテーマ「産業・経済・交通」「環境・景観・防災・上下水」「健康・福祉」「子育て・教育」を導き出し，「産業・経済・交通」編の地域の現状と課題を整理し，「１０年後の目標」と「目標を達成するための方策や実行プラン」を策定し，提案書としてまとめました。（平成２３年２月提案書提出）

《第３期：平成２３～２４年度》

「子育て・教育」「環境・景観・防災・上下水」「健康・福祉」について，地域の現状と課題を整理し，「１０年後の目標」と「目標を達成するための方策や実行プラン」を策定しました。また，各方策の取り組み内容の検討にあたっては，東日本大震災の教訓を踏まえ，日頃から人々が相互に支えあい，助け合うことの重要性を念頭に置いた議論を重ね提案書としてまとめました。（平成２５年２月提案書提出）

《第４期：平成２５～２６年度》

「産業・経済・交通」編の提案から４年が経過したことから，地域の現状や社会情勢等を踏まえ，提案内容の進捗状況などについて検証・評価を行うとともに，提案した取り組みをより具現化するための見直しを行い，上河内地区まちづくり協議会と連携を図りながら，提案書としてまとめました。（平成２７年２月提案書提出）

《第５期：平成２７～２８年度》

「子育て・教育」「環境・景観・防災」「健康・福祉」編について地域の現状や社会情勢等を踏まえ，提案内容の検証・評価を行い，集大成として全４テーマを提案書としてまとめました。（平成２９年２月提案書提出）

上河内自治会議委員歴代名簿

《第１期：平成１９～２０年度》　　（ ◎会長，〇副会長 ）

◎沼田 良	〇古橋 正好	青木 定夫	江連 功	江連 俊
大木 清茂	小野 三朗	北見 幸夫	小嶋 耕一	斎藤 功
齋藤 和之	佐藤 和男	佐藤 きよ子	塩井 洋子	柴田 征男
手塚 敏子	手塚 光彦	利根山 則夫	古橋 悟一	松田 仁一
和田 春海				

《第２期：平成２１～２２年度》

◎太田 正	〇神山 光男	江連 功	江連 俊	小野 久男
柏木 聖子	北見 和弘	北見 幸夫	小林 和美	櫻井 清一
佐藤 きよ子	柴田 征男	鈴木 幸男	手塚 敏子	手塚 道子
福島 照喜	藤井 直和	古橋 悟一	横塚 境	和田 春海

《第３期：平成２３～２４年度》

◎太田 正	〇神山 光男	赤羽 博行	江連 脩身	小野 久男
亀田 勝敏	川津 昭夫	北見 和弘	君島 恭子	櫻井 清一
櫻井 誠	髙橋 みどり	田口 利男	東原 勸	手塚 道子
手塚 安則	藤井 直和	星 優美子	谷田部 喜美江	山口 和子
横塚 境				

《第４期：平成２５～２６年度》

◎太田 正	〇神山 光男	赤羽 博行	江連 脩身	川津 昭夫
君島 恭子	小嶋 康夫	笹沼 志津子	鈴木 敏正	髙橋 榮一
髙橋 みどり	東原 勸	手塚 正義	手塚 豊	長嶋 秀子
中山 善一	長谷川 良子	福嶋 修	藤枝 登茂子	山口 和子

《第５期：平成２７～２８年度》

◎太田 正	〇神山 光男	石川 修	江連 脩身	大越 典夫
金田 典男	川津 昭夫	北見 幸夫	君島 恭子	笹沼 志津子
鈴木 敏正	髙橋 榮一	田邉 倫俊	東原 勸	長嶋 秀子
長谷川 良子	福嶋 修	藤枝 登茂子	山口 和子	渡邉 政一

（敬称略，会長・副会長を除き五十音順）